

研究成果情報 1

【成果情報名】系統豚「フジザクラ」の組合せ検定

【要約】 フジザクラと県外及びアイオワ州からの導入豚を交配することによって、フジザクラの繁殖能力や肢蹄の強健性が向上した。

【担当】 山梨県畜産試験場・養豚科・高橋照美

【分類】 技術・参考

【課題の要請元】

養豚農家

【背景・ねらい】

山梨県では、ランドレース種の系統豚「フジザクラ」を維持しているが、系統造成から18年を経過し、平均近交係数が高くなり、優良な種豚の生産が困難となってきた。そこで、フジザクラの能力向上を図るため、フジザクラと県外及びアイオワ州から導入した優良なランドレース種を交配してLL豚を生産した。また、このLL豚の能力を確認するため、LL豚に大ヨークシャー種を交配したLLW豚を生産して組合せ検定を実施した。

【成果の内容・特徴】

1. 生産された雌豚のうち、種豚候補として選抜される割合は、L豚よりもLL豚、LW豚よりもLLW豚の方が多くなる（表-1）。
2. フジザクラにアイオワ導入豚を交配すると、生産頭数、離乳頭数及び乳頭数が増加する（表-2、3）。
3. フジザクラにニホンカイL2及びアイオワ導入豚を交配すると、肢蹄の強健性が向上する（表-3）。

【成果の活用上の留意点】

1. 従来のL豚及びLW豚に加えて、LL豚及びLLW豚をフジザクラポーク生産のための種豚として用いるための基礎資料として活用できる。

【期待される効果】

1. フジザクラと県外及びアイオワ州からの導入豚との交配により、フジザクラの繁殖能力や肢蹄の強健性の向上が期待できる。

【具体的データ】

試験区分

試験1：フジザクラとそれ以外のランドレース種との比較試験（表-2、3関係）

L区（対照区）	フジザクラ	×	フジザクラ
LL（ニホンカイ）区	フジザクラ	×	ニホンカイL2
LL（アイオワ）区	フジザクラ	×	アイオワ導入豚

試験2：LW豚とLLW豚との比較試験（表-3関係）

LW区（対照区）	（フジザクラ×フジザクラ）	×	W
LLW（ニホンカイ）区	（フジザクラ×ニホンカイL2）	×	W
LLW（アイオワ）区	（フジザクラ×アイオワ導入豚）	×	W

注）Wはナガラヨーク

表-1 種豚候補選抜割合（H17年4月～H19年9月まで）

項目	L豚	LL豚	LW豚	LLW豚
腹数	24	18	24	11
生産頭数のうち♀の頭数（頭）	4.0	4.4	4.6	4.0
♀のうち種豚候補選抜割合（%）	34.0	50.0	70.0	86.0

注）種豚の選抜基準（全ての項目において合格点以上となった個体を種豚として選抜した）

項目	内容
一般外貌	大型で発育がよく、体高があり、四肢は正しく立ち、各部の釣り合いがよいもの
体の構成	背がほぼまっすぐで、背腰が長く、背幅が広く、胸と腹が深く充実しているもの
資質	活気があり、性質温順、皮膚はなめらかでしわが無く、毛は柔らかかで光沢のあるもの
乳器・生殖器	正常な乳頭が左右6個以上で、配列が等間隔であるもの
肢蹄	肢間が広く、正しい立ち方で、つながりが弾力があり、蹄は大きく左右がそろい、歩様のよいもの

表-2 試験1の繁殖成績

試験区分	腹数	生産頭数 （頭）	離乳頭数 （頭）	育成率 （%）	生時体重 （kg）	離乳体重 （kg）
L区（対照区）	19	6.9	6.0	86.6	1.4	5.5
LL（ニホンカイ）区	4	5.8	5.3	92.9	1.5	6.3
LL（アイオワ）区	4	9.5	8.3	88.5	1.4	5.7

表-3 乳器及び肢蹄

試験1 L、LLの比較			試験2 LW、LLWの比較		
試験区分	乳頭数	肢蹄得点	試験区分	乳頭数	肢蹄得点
L区（対照区）	13.5	11.0	LW区（対照区）	13.9	11.2
LL（ニホンカイ）区	13.4	13.8	LLW（ニホンカイ）区	14.0	13.8
LL（アイオワ）区	14.2	12.1	LLW（アイオワ）区	15.0	14.3

[その他]

研究課題名 : 系統豚「フジザクラ」の組合せ検定
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 2005年度～2006年度